

スポーツ概念の変遷

スポーツの語源 01. A. 01

① スポーツの語源を考えるために

現代という時代は、日々、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のメディア、また近年ではインターネットや SNS(Social Networking Service)などの様々なウェブサイトを通して、各種スポーツ情報が大量に報じられたり、人々の日常的な話題になったりする。そういう意味では、スポーツはわれわれにきわめて身近な存在であるといえる。しかし、スポーツは文化現象として、その時々時代の影響に規定され歴史的には大きく変容、発展してきた。したがって、英語の sport という語も歴史的な変遷を経ながら意味形成を行ってきた。

歴史的にみれば、「スポーツとはなにか」ということに対する明確な概念規定の必要性は、それほど重要な問題ではなかったようである。20 世紀に入り、スポーツの国際交流の進展により、スポーツの語の意味・内容に関する国際的な共通理解を確立する必要性から、スポーツの概念を確定する作業が始まったといえよう。

一般に、現在スポーツの概念として考えられるものの基底には、1949 年に出されたジレ(B. Gillet)のスポーツの概念が挙げられる。ジレは、スポーツを「遊戯」「闘争」「はげしい肉体活動」の 3 要素で構成される身体活動であると定義した(ジレ, 1952)。そして現在のスポーツの定義はジレ以降、概ね彼のこの見解を踏襲してきたといえる。その一例として、日本でのスポーツの定義をみると、スポーツとは「陸上競技・野球・テニス・水泳・ボートレースなどから登山・狩猟などにいたるまで、遊戯・競争・肉体的鍛錬の要素を含む身体運動の総称」(広辞苑第六版)であると記述されている。

第二次大戦後のスポーツの隆盛は、スポーツの地理的、社会的拡大をもたらし、スポーツの語の意味・内容の多義性を増大させた。この多義性は、スポーツの捉え方や考え方を混乱させ、あるいは世界のスポーツ界がいつその競技化や高度化を志向する中で顕在化してくるドーピング問題に代表されるスポーツの規範にかかわる問題を複雑にし、国際的な水準でのスポーツ概念の統一機運をもたらした。このような背景から、国際スポーツ体育協議会(現・国際スポーツ科学体育協議会, Inter-national Council of Sport Science and Physical Education: ICSSPE)は 1968 年に「スポーツ宣言」を提議し、スポーツとは「プレイの性格をもち、自己または他人との競争、あるいは自然の障害との対決を含む運動」であると定義した。この定義も上述したジレのそれをほぼ踏襲したものである。

しかし、現在のスポーツの定義の源流となったジレのスポーツの概念も、スポーツの意味的変遷からみると、いくつかの問題点を含んでいるといわざるを得ない。その問題点の 1 つは、マッキントッシュ(1970)が指摘するように、イギリスでは“sport”という語が、悪ふざけや恋をすること、自動車競走や山登りまでの広範な対象に用いられ、スポーツという語が身体活動に限定されて用いられていないことである。またジレが提起したスポーツの概念を構成するスポーツに不可欠な 3 要素(遊戯, 闘争, はげしい肉体活動)が明確にスポーツの徴表として立ち現れてくるのは 19 世紀以後になってからのことであり、それ以前の「楽しみ」

や「遊び」を中心とするスポーツの語の意味とは明らかに異なること等が挙げられる。

② スポーツの語源と意味の変

ジレが定義した、スポーツの徴表としての「遊戯」「闘争」「はげしい肉体活動」の3要素がスポーツの構成要素として成立するのは、19世紀以降のスポーツに対してである。それ以前のスポーツの意味・内容は、このジレの定義とは大きく異なるものであった。

言語には日常的な事実が概念化されているため、sportの言語的理解はスポーツの概念理解に対して重要な役割を果たすと考えられる。これらのことを念頭に置きながら、ここではスポーツ(sport)の語がどのように変遷したのかについて、「スポーツの語源」研究に沿って述べる。

表1 スポーツの語源と意味の変遷

時代	語源と意味の変遷
15世紀以前	deportare〈ラテン語〉に由来。[接頭語 de-=away(分離)と同義][portare=carry 運び去る, 運搬する, 輸送する, 追放する] ↓ deporter (desporter)〈古代フランス語, アングロ・フレンチ〉へ。 [気分を転じさせる, 楽しませる, 喜ばせる] ↓ 11世紀中半にイギリスに伝播, deport, desporteとして定着。
15-16世紀頃	* 古代フランス語の deporter が deport としてイギリスに定着。 ・ 動詞[我慢する, 忍ぶ, 節制する, 礼儀作法に従って振る舞う, 物を運ぶ, 追放する] ・ 名詞[楽しみ, 娯楽]→18世紀に廃語。(現在, 動詞のみ) * 古代フランス語の desporter から由来した中世英語の desport (e)は dysport の表記を経て, disport として定着・ [disport:内面的な状態を転換, 移動, 変化させること。気分転換, 娯楽, 遊び] ↓ [野外での気晴らし, ゲーム, これらを通して得る気分転換を意味するようになる]
17-18世紀頃	disport, dysport は spoort, sporte の形に移行し始め, disport, sport として定着。 [sport: 狩猟等によって得られる気晴らし] ↓ 18世紀頃[動詞 sport: 見せびらかす, 賭ける, 投資する] [名詞 sport: 野外での自由な活動, 狩猟, 気晴らし]
19世紀中葉	名詞 sport に競技的性格が付与される。 [戸外で行われるゲームや運動に参加すること, 戸外でのゲームや娯楽の総称名詞]

〈出典：阿部生雄, 「スポーツの概念史」『宇都宮大学教養部研究報告』1(9),1976:99-117 から作表〉

わが国のスポーツの語源研究は、岸野雄三と阿部生雄によって行われ大きな成果を上げてきた。以下では彼らの成果に負いながらスポーツの語源について明確にしていく。岸野(1972: 3)によれば、当時の一般的な見解として、1928年に刊行されたガッシュ(R.Gasch)の体育辞典(Hadbuch des gesamten Turnwesens)では、sportはラテン語のdisportareにさかのぼるフランス語の動詞desporter(運ぶ)に由来するという説明があり、スポーツの語源を英語のspurt(瞬時的緊張)やゴート語のspaurds(走路)に求めるのは誤解であるとの記述がなされているという。また、ナチズムの時代になるとシュトレベル(R. Ströbel)は『古代ドイツのスポーツ』(Sport der Germanen, 1936)という著書で、sportの語源がゲルマン語

であると述べたという。現代では、スポーツの語源と意味の変容は表 1 に示したように一定の共通理解が得られている。

いうまでもなく、sport の語は英語を通して世界に広まったのであるが、本来この語はイギリスで生まれたものではなく、その語源はラテン語の *dēportāre* (原意：運び去る、運搬する、移る) に由来するといわれている。接頭語である *de-* は *away* を意味し、*portare* は *carry* を意味するという。*dēportāre* が示す、ある所からある所への運搬、移動、転換という意味構造は、古代フランス語の *deporter, desporter* に受け継がれ、次第に物理的意味の次元から内面的・精神的な次元での移動・転換を原理とする喜びや楽しみを表現するようになる。それは心のある状態から、他の状態へ移動させることによって得られる内的な喜びや楽しみを内包する言葉になっていく過程として理解できる。さらにこの語は、13-14 世紀に中世英語である *deport* (楽しみ、娯楽、気分転換〈名詞〉) に変化し、やがて 16-17 世紀には *disport* (気晴らし、娯楽〈名詞〉) を経て *sport* に変わっていく (岸野, 1977.80-82; 佐伯, 1987.521)。これらの *sport* の語の変遷をみれば、*sport* はジレのいう「闘争」や「はげしい肉体活動」を必須の要件とするものではなかったことが理解できよう。

sport は 17-18 世紀になると、上流階級 (ジェントリー) の文化を強く反映し、野外での自由な活動や狩猟的活動を主に意味するようになる。そして中流階級 (新興ブルジョアジー) が台頭してくる 19 世紀までは、*sport* は狩猟とほぼ同義のものとして使用される。しかし、狩猟を意味する *sport* は 19 世紀に新興ブルジョアジーが推進した組織的ゲーム (= 近代スポーツと呼ばれるもの) の興隆に伴って、次第に運動競技を意味する用語に転化していく (友添, 1988.11)。

このように *sport* という語が競争をその概念に内包させるのは 19 世紀以後のことであり、現在、われわれが学校や社会で日常接している競争を特質とするスポーツの多くはこの時期を境に生まれてきたものであるといえる。以上、要約すれば、*sport* は語源的に、気晴らしや気分転換を意味する中世英語の *deport* から変化し、主に狩猟を意味する時代を経て、18 世紀以降スポーツが組織化されるにつれ、競争やプレイ、激しい肉体活動を意味するようになってきたものである。

参考文献 01.A.01

- * 阿部生雄 1976. 「スポーツの概念史」『宇都宮大学教養部研究報告 11(9):99-117.
- * ———, 1995, 「辞書に見る”スポーツ概念”の日本的受容」中村敏雄編, 「外来スポーツの理解と普及」9-72. 創文企画
- * ———, 2009, 『近代スポーツマンシップの誕生と成長』筑波大学出版会
- * ジレ. 1952. 「スポーツの歴史」〈文庫クセジュ〉近藤等訳 9-20. 白水社
- * 岸野雄三ほか編 1972. 「スポーツの技術史」大修館書店
- * 岸野雄三 1977. 「スポーツ科学とは何か」朝比奈一男ほか編. 『スポーツの科学的原理』77-133. 大修館書店
- * マッキントッシュ. 1970. 『スポーツと社会』石川旦ほか訳. 不味堂出版
- * 佐伯聰夫 1987. 「スポーツ」日本体育協会監修. 「最新スポーツ大事典」521-24 大修館書店
- * 友添秀則 1988. 「スポーツの文化論的探求」植村典昭ほか編. 『スポーツと身体運動の科学的探究』2-33. 美巧社

(友添秀則)

スポーツ概念の変遷（友添秀則）

21世紀スポーツ大辞典

初版第1刷 2015.1.20

編集主幹 中村敏雄／高橋健夫／寒川恒夫／友添秀則

発行所 大修館書店